

体液 - 体腔

(心嚢液/心膜液)



提出が必要な主な構成要素

- 染色済みの直接（未濃縮）調製、血液塗抹に類似

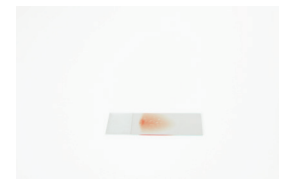
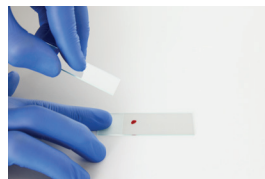
体液サンプルの採取

体液サンプルは、速やかにEDTAチューブに入れるようにしてください。

心嚢液/心膜液に関するメモ

心嚢液/心膜液は、末梢血と外観が類似しています。採取した心嚢液/心膜液サンプルが血液を含んでいないように見える場合は、体腔液（腹水、胸水）のサンプル調製の推奨事項を参照してください。

直接（未濃縮）調製：



スライドの調製

- EDTAで抗凝固処理血液を混合します
- マイクロヘマトクリットキャピラリーチューブまたは精度の良いピペットを用いて、混合された直後のチューブから血液を採取し、ラベル付けされたスライドに静かに滴下します
- チューブをスライドに当てないように注意してください
- この血液の移送に木製のスティックを使用しないでください - 血小板と白血球が付着してしまう可能性があります

スプレッダー スライドを置く

- スプレッダースライドをラベル付きのスライドの上の血液滴の前に置き、30～45°の角度で保持します

血液を展開する

- スプレッダーブライドが血液的に接触するところまで引きます
- 毛細管現象により、サンプルはスライドの端に向かって広がります
- 血液がスライドの端まで広がらないようにします

展開を完了する

- スライドの端に血液が到達する前に、滑らかで安定した流れる動きで、スプレッダースライドを下部スライドに広がる血液滴サンプルから離します。一連の動きの間、角度を維持し、下向きの圧力を加えないようにします。これにより、スライドの約2分の1～3分の2を覆う均一な血液のフィルムが生成されます
- 風乾によるアーチファクトを避けるため、スライドを風乾します（スライドを熱を加えないでください）

スライドを確認する

- 血液塗抹サンプルが容易で来たら、目視でスライドの1/2～2/3が覆われていることを確認します
- 塗抹は指紋のような形状で、フェザードエッジが含まれていないはずです